

**BỘ GIÁO DỤC VÀ ĐÀO TẠO
TRƯỜNG ĐẠI HỌC QUẢN LÝ VÀ CÔNG NGHỆ HẢI PHÒNG**



ISO 9001:2015

KHÓA LUẬN TỐT NGHIỆP

NGÀNH: NGÔN NGỮ ANH- NHẬT

**Sinh viên : Nguyễn Thị Huê
Giảng viên hướng dẫn: ThS. Phạm Thị Huyền**

HẢI PHÒNG - 2019

教育訓練省
ハイフォン経営・技術大学

日本人の伝統的な服装：着物

卒業論文

専門：英語—日本語

学生 : グエン・テイ・フエ

指導教授 : ファム・ティ・フエン, M.A

ハイフォン- 2019

BỘ GIÁO DỤC VÀ ĐÀO TẠO
TRƯỜNG ĐẠI HỌC QUẢN LÝ VÀ CÔNG NGHỆ HẢI PHÒNG

NHIỆM VỤ ĐỀ TÀI TỐT NGHIỆP

Sinh viên: Nguyễn Thị Huệ

Mã SV: 1512753061

Lớp: NA1902N

Ngành: Ngôn Ngữ Anh- Nhật

Tên đề tài: 日本人の伝統的な服装 : 着物

NHIỆM VỤ ĐỀ TÀI

1. Nội dung và các yêu cầu cần giải quyết trong nhiệm vụ đề tài tốt nghiệp (về lý luận, thực tiễn, các số liệu cần tính toán và các bản vẽ).

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

2. Các số liệu cần thiết để thiết kế, tính toán.

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

3. Địa điểm thực tập tốt nghiệp.

.....

.....

.....

CÁN BỘ HƯỚNG DẪN ĐỀ TÀI TỐT NGHIỆP

Người hướng dẫn thứ nhất:

Họ và tên: Phạm Thị Huyền

Học hàm, học vị: Thạc sĩ

Cơ quan công tác: Khoa Ngoại Ngữ, Đại học Quản lý và Công nghệ Hải Phòng (Tên cũ: Đại học Dân lập Hải Phòng)

Nội dung hướng dẫn: 日本人の伝統的な服装 : 着物

Người hướng dẫn thứ hai:

Họ và tên:.....

Học hàm, học vị:.....

Cơ quan công tác:.....

Nội dung hướng dẫn:.....

Đề tài tốt nghiệp được giao ngày ... tháng năm

Yêu cầu phải hoàn thành xong trước ngày tháng năm

Đã nhận nhiệm vụ ĐTTN

Sinh viên

Đã giao nhiệm vụ ĐTTN

Người hướng dẫn

Hải Phòng, ngày tháng.....năm 20..

Hiệu trưởng

GS.TS.NGŨT Trần Hữu Nghị

CỘNG HÒA XÃ HỘI CHỦ NGHĨA VIỆT NAM
Độc lập - Tự do - Hạnh phúc

PHIẾU NHẬN XÉT CỦA GIẢNG VIÊN HƯỚNG DẪN TỐT NGHIỆP

Họ và tên giảng viên:

Đơn vị công tác:

Họ và tên sinh viên: Chuyên ngành:

Nội dung hướng dẫn:

.....
.....

1. Tinh thần thái độ của sinh viên trong quá trình làm đề tài tốt nghiệp

.....
.....
.....
.....
.....
.....

2. Đánh giá chất lượng của đề án/khóa luận (so với nội dung yêu cầu đã đề ra trong nhiệm vụ Đ.T. T.N trên các mặt lý luận, thực tiễn, tính toán số liệu...)

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

3. Ý kiến của giảng viên hướng dẫn tốt nghiệp

Được bảo vệ Không được bảo vệ Điểm hướng dẫn

Hải Phòng, ngày ... tháng ... năm

Giảng viên hướng dẫn

(Ký và ghi rõ họ tên)

CỘNG HÒA XÃ HỘI CHỦ NGHĨA VIỆT NAM
Độc lập - Tự do - Hạnh phúc

PHIẾU NHẬN XÉT CỦA GIÁO VIÊN CHĂM PHẢN BIỆN

Họ và tên giảng viên:

Đơn vị công tác:

Họ và tên sinh viên: Chuyên ngành:

Đề tài tốt nghiệp:

1. Phần nhận xét của giáo viên chăm phản biện

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

2. Những mặt còn hạn chế

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

3. Ý kiến của giảng viênchăm phản biện

Được bảo vệ Không được bảo vệ Điểm hướng dẫn

Hải Phòng, ngày ... tháng ... năm

Giảng viênchăm phản biện

(Ký và ghi rõ họ tên)

目次

謝辞	
はじめに.....	1
内容.....	2
I.概念.....	2
1.1.伝統的な服装というのはどういう意味だか.....	2
1.2.着物.....	3
1.2.1.全般.....	3
1.2.2.定義.....	4
II.着物の形成と開発の歴史.....	6
III.着物.....	8
3.1.タイプとデザイン.....	8
3.1.1.振袖（ふりそで）.....	8
3.1.2.浴衣（ゆかた）.....	9
3.1.3.訪問着（ほうもんぎ）.....	10
3.1.4.留袖着物（とめそできもの）.....	10
3.1.5.喪服着物（もふくきもの）.....	11
3.1.6.白幕（しろまく）.....	12
3.1.7.紬（つむぎ）.....	12
3.1.8.付け下げ（つけさげ）.....	13
3.1.9.小紋（こもん）.....	13
3.1.10.色無理（いろむり）.....	14
3.2.縫製方法と製造.....	14
3.2.1 縫製方法.....	14
3.2.2.製造.....	16
3.3.付属品.....	17
3.4.値段.....	18
3.5.着物の使用.....	19
3.6.ベトナムのアオザイの対照.....	20
IV.現代の着物.....	23
4.1.現代の着物の傾向.....	23
4.2.変更.....	23
結論.....	25
参考文献.....	26

謝辞

最近の卒業論文を作成する間に、私はたくさんの助けと時宜^{じぎ}を得た支援を受けて、割り当てられた卒業課題をよく修了^{しゅうりょう}するためにすべての困難^{こくふく}を克服^{しょうらい}するように奨励しました。私は本当にありがとうございます。まず、ハイフォン工芸と管理大学のチャン・フー・ギ（Trần Hữu Nghị）校長にお礼を申しあげたいと思います。校長先生のおかげで、最初の卒業式の仕事を受けてくれて、時間通りに卒業できたのです。私は心から感謝します。

次、私はチャン・テイ・ゴック・レン（Trần Thị Ngọc Liên）学部長をはじめ、ハイフォン工芸と管理大学の外国語学科の先生に感謝することを表したいと思います。レン先生は価値のある情報、タイムリーなサポートと熱心なガイド^{ていきょう}を提供してくれました。ですから、私が時間通りに卒業する機会^{のが}を逃さないようになります。

特に、私は4年間教えて、3ヶ月間私の論文を作成するのを指導してくれた日本語教師のファム・ティ・フエン（Phạm Thị Huyền）先生に非常に感謝しています。フエン先生は熱心な先生で、忙しい仕事なのに、できるだけ多くの学生を支援するために自分の貴重な時間を調整しました。先生は心をこめて教え、それぞれの間違いを細かく修正して、それにフエン先生に多くの役に立つ知識を与えました。そのおかげで、今日、私は学校が割り当てた卒業の仕事を完了することができました。心からお礼を申し上げます。

本論文は多くの欠点があるかもしれません。私は先生からのご意見を受けたしたいと思います。

ハイフォン、2019年6月。

学生

グエン・テイ・フエ

はじめに

高校を卒業した上で、私は自分の大学進路について疑問に思った。当時、日本語は非常に目立つ言語である。日本語が話せば、魅力的な給料で多くの仕事を見つけることができると言われる。そこで、自分の大学進路を追求する目標として日本語を勉強することにした。

4年間にわたって、私は日本の伝統的な言語と文化についてもっと学び、私の専攻にますます興味を持つようになった。日本は勤勉で親切な人々のいるとても美しい国だ。日の元のお国はまた茶道、武道、特別な祝祭などのような文化が世界によって賞賛される場所である。特に、日本は有名なアニメやカラオケの発祥の国だ。カラオケ文化がベトナムを含む多くの国に存在する。

ベトナムの人々がアジアの女性の優しい形と美しさを現すアオザイ(Ao dai)を常に誇ると思っており、中国人女性がチャイナドレスでスリムになれば、日本人は自分の着物民族衣装を尊重し、崇拜する。

本論文では、日本の伝統衣装、着物について深く究めると申し上げる。着物が日本のような言語における洗練(で、儀式を重視する国の象徴的な民族衣装となったのは当然じゃない。

それは着物が複雑な着方で、様々な形や色の特徴を通して日本人の誇りを示しているからだ。対象によって現れる美しさが違う。たとえば、男性がサムライ武士の強く、女性が女らしく、子供たちが幼く、可愛く、老人がフォーマルで荘厳な服装をしている。着物について私が知っているほど、繊細な視点をはじめ、日本人の知性や才能などに感心する。

本論文では、「着物」・日本の伝統的な服装と「アオザイ」・ベトナムの伝統的な服装について比較と対照を行う。比較対象は形成と開発の歴史やデザインの種類や縫製の仕方といったものだ。主要な項目に四つわけする。第一項目は着物の定義や伝統的な服装のどういう意味かといった概念に関連する。第二項目は着物の形成と開発の歴史だ。第三項目はタイプとデザイン、縫製方法と製造、といった着物に関するものだ。第四項目は現代の着物だ。最後は結論だ。

内容

I. 概念

1.1. 伝統的な服装というのはどういう意味だか。

ウィキペディアによると、「伝統的な服装とは、ある国や地域や民族のエンブレム、あるいは集団の歴史的な時代の伝統的な服装や衣装である。

国民服を着ることは、コミュニティや組織の連帯を強化するという観念を持っている。西部の服装（洋服）が徐々に世界的に普及している間、

民族衣装は文化的な伝統に関する祝祭日もしくは厳粛なイベントにあたって使われる特別な服装として維持されてきた。伝統的な服装は田舎者から王者までの様々な衣服を含むかもしれないが、民族衣装は祝祭日のための民間人の最も正式な衣装である。」と自分で翻訳した。

Nhan Dan 新聞によると、伝統的な服装は全国的な文化製品である。それは、体を保護し、自然に適応する（風邪や熱を防ぐ）ための手段であるだけでなく、その発展とともに、衣服はコミュニティの前での各人の文化的態度のしるしでもある。伝統的な衣装から、各文化的コミュニティの美的傾向と能力を認識することができる。いくつかの民族グループにとって、伝統的な服装はまた、スカートやシャツに織られた、あるいは刺繍された模様、モチーフを通して、宇宙の概念、過去の文化的コミュニティの人生を伝えている。一部の衣装には、各人の社会的地位を区

別する兆候もある。ユニークな文化と価値をあわせるのおかげで、伝統的な服が常にそれぞれの国の文化の誇りと考えられている。民族衣装を身に着けている際は、個人が自分の文化的個性と外観を作った民族文化のアイデンティティを意識している際でもある。ところが、そのうちに、伝統的な衣装が伝統的で不変の意味も持つと肯定する。その履歴期間の条件に従って、常に特定の履歴期間の製品である。

Dai Ky Nguyen のページによると、伝統的な服はまた国の国民の魂であり、国民の誇りでもあり、社会中に人の文化起源を表している。人生がただの数十年しかなれば、伝統的な衣装は数百年、数千年の寿命を持っているので、彼らは強い活力を持ち、自分の人格を豊かにする。

だから、我々はこういう理解することができる。伝統的な服装はそれぞれの国や地域のユニークな文化的特徴である。衣装は、長期的な文化価値を組み合わせ、日常着の必要性から成り立っている。何百、何千年もの間に、伝統的な服装は国民の魂となる。伝統的な服装が国家全体の

象徴として尊敬されていると簡単にわかる。ある国の服装を見ると、その国の文化や歴史や経済や政治といった側面が見られる。

1.2. 着物

1.2.1. 全般：

以下の分は全部がウィキペディアページから抜かれた。

「服飾史学者のふくしよくし小池三枝こいけみえによれば、着物は元来「着る物」という意味であり、単に「衣服」を意味する語であった。しかし、洋服が移入して以降、「西洋服」・「洋服」と区別して、「じゅうらい従来ひんぱんの日本の衣服」を「日本服」・「和服」と呼ぶようになり、さらに「着物」の語にも置き換えられるようになった。時代が進み、日常生活で頻繁に洋服が用いられるようになると、「着物」から「着る物」という本来の意味は薄れていき、「和服」の意味が濃くなっていった。現代での「着物」という語はもっぱ専ら「和服」を意味し、狭義には一定の形式の和服（すなわち長着）を指す言葉に移りつつある。

日本で和服という言葉が生まれる明治時代よりもずっと前の 16 世紀の時点で、日本人が衣服のことを指して呼んだ着物が、現在で和服を表す語としてヨーロッパ人に知られるようになり、現在ではヨーロッパに限らず世界の多くの言語で日本で和服と呼んでいる物を着物と呼んでいる。着物は、日本の和服だけではなく、東アジア圏全般で見られる前合わせ式の服全般を指すこともある。明治大学政治経済学部教授で文学者のマーク・ピーターセンの解説によると“着物”は「和服」ではなく「着物風の婦人用化粧着」というものを表わす英単語として使われ、さらに「着物姿の」という意味で“着物”と単語の活用がなされる場合がある。

呉服という呼び名については、これは和服用の織物の呼称の一つで、特きぬおりものに絹織物を指す語である。もともとは絹織物を指す語として、めんおりもの綿織物・あさおりもの麻織物を指す太物（ふともの）と区別されていたが、現在は和服用の織物のそうしょう総称としても使われている。

日本人は着物を数百年間使用してきた。今日、着物は通常休日にしか使わない。着物を着ている女性は男性よりも人気があり、多くの場合、目立つ色と模様がある。主に結婚式や茶道の儀式中に男性のための着物はパターンがなく、色が濃いだ。

1.2.2. 定義：

「着物とは、字の通り「着るもの」という意味で、もともとは身に着ける衣服そのものを指す言葉である。

日本人の着るものは時代によって変化してきたが、江戸時代には、今の着物とほぼ同じ形のものが出来上がっている。

洋服を着るのが日常的になった現代では、着物といえば、日本の伝統衣装として着物のことを指すようになった。」と言われる。

一方、ある意見は「着物（着る服という意味）またはホア^{せいふくしゃ}征服者（すなわち和服）とも呼ばれる日本の伝統的な服だ。着物は伝統的な衣装だけでなく芸術作品でもある」ということだ。

それじゃ、着物と和服は何が同じか違うか？

上のはじめ部分のとおり、着物は着るものだと安易に理解される。着物は日本人の服装のうち一つだ。和服（わふく）とは、日本在来の衣服のこと。ふたつの言語の違いについては、以下のようになる。

ウィキペディアによると、「和服」は、文字通り「和」の「服」、すなわち日本の衣服という意味である。この言葉は明治時代に、西洋の衣服すなわち「洋服」に対して「従来の日本の衣服」を表す語として生まれたレトロニムである。レトロニム（英語：retronym）あるいは再命名とは、ある言葉の意味が時代とともに^{かくちょう}拡張された、あるいは変化した場合に、古い意味の範囲を特定の^{こうあん}に表すために後から考案された言葉のことを指す。

そのほか、和服の概念について着物-study ページもこういう説明した。「明治以降になって西洋の文化がもたらされ、次第に洋服が日本の社会に^{しんとう}浸透するにつれて、着物と洋服を区別して呼ぶ必要が出てきました。そのため、西洋の服である「洋服」に対して、日本古来野服である着物のことを表すのに、「和服」という言葉がつかわれるようになった。

現代では、どちらも伝統衣装の着物を表す言葉として使われている。和服は、洋服の対義語に当たる。二つの言葉の正確な意味と違いについては案外知られていない。

つまり、上でいくつかの材料にわたって、日本人の服装に名前を受ける方がいくら複雑で、豊かなことかと発現した。私にとって、着物とはただ和服である。着物が日の元のお国にいるときにだけ、自分の高貴な美しさをすべて発展させる。着物と和服の概念について詳しく分解するのは必要がない。多くの理論が読者を非常に^{たいくつ}退屈に感じさせるだろう。

代わりに、私たちは着物に関してもっと一般で、新しい方法で理解するべきだ。

II. 着物の形成と開発の歴史

着物は日本の長い歴史を持つ伝統的な衣装である。過去 1000 年にわたって、日本のような繁栄している国の伝統的な服装になるために、着物はいくつか歴史の浮き沈みを経験した。

ベトナムの観光ページと日本のニュースページ (JAPAN NEWS) という二つのページに基づいて、着物の形成と開発の歴史について紹介したいと思う。6つの段階が含む。

- 平安時代 (794~1185 年) には、たくさんの複雑な層とともにカラフルな伝統的な着物が日本の女性に好かれた。民間はそれぞれの独特のニュアンスを表す袖や襟があるの 12 層の着物を着る。皇族の人たちも最大 16 層の着物を着ている。
- 鎌倉時代 (1185 年 - 1333 年) には、軍隊と兵士の階級の影響で、人々はもはや忍耐強くないのみならず、複雑な着物を着る需要がなくなった。小袖セット (半袖着物) が使用され、非常に人気になった。1615 年に徳川将軍は日本の首都を京都から江戸に移し、儒教が受け入れられ、階級の分裂が深刻になった。江戸時代には着物を通して彼らの社会階級を確認した。また、この期間中に、多くの素晴らしい芸術的傑作も着物を通して作られた。

1853 年以降、アメリカ海軍が日本に来て、日本の貿易商業も西洋への開放が始まる。日本人は何百年もの間に着物を着ていたが、それ以来、この習慣の終わりも近寄った。

- 江戸時代 (1603-1868) の着物は、この時期に西洋の導入とともに、日本人は以前より着物の着用が少なくなり、西洋の制服の人気が高まった。毎日、着物を身に着けていることは消えていた。しかし、この期間中に、着物に帯のハイライトがあった。オビのベルトはきれいさを作り出すのを助けるだけでなく、非常に審美的に装飾するのに役立ち、それに装いだけでなく服の外観も飾った。
- 明治時代 (1868~1912 年) に、女性は仕事に出かけ始め、仕事に適した服を要求する需要があった。ヨーロッパの衣装は次第に普及してきた。その時、国内で作られた絹で着物を縫うだけでなく、世界の他の地域から布を輸入して、着物や他衣装を縫った。

- 大正 (1912 - 1926) の間に東京は (1923 年) ひどい地震を被った。それで、この地震で多くの古い着物も失われた。
- 昭和 (1926-1989) からは、着物のデザインも最も複雑になった。第二次世界大戦後、日本経済が次第に回復したときに着物は再び人気を博し始めた。欧米諸国のファッションのアイデアが着物のデザインやモチーフに大きな影響を与えたとしても、それはほとんど元の形をそのままに保った。スタイルを減少させるが、詳細も削除される。

今日ではおそらく、値段が高すぎる (上質な絹から着物の値段が 50 万円を超えることがある) こと、社会的状況のせいで、人々が着物を着ることがめったにない。祝日においてほとんど高齢者に着物が着られるだけが、着物はまだ日本だけでなく、すべての人類にとって価値のあるユニークな文化遺産である。

まとめ

源が何であれ、我々はこれを見ることができる。着物は多くの浮き沈みで形成と開発の歴史を経てきた。着物という名前は、最初は着るための服であり、洋服と区別するために和服と呼ばれていった。服装の基本的な元は中国人と朝鮮人とモンゴル人のスタイルの組み合わせで、気候条件と本島国の生活様式に適応していた。そしてこれもフータン (Phu Tang) の典型的な特徴の一つである。外部の革新から目立った利点は「回復」され、多くの「新しい要素」を加え、日本伝統の徐々に不可能な部分となる。歴史的な流れの浮き沈みの多くの変化の後、着物は徐々にその名前を主張している。着物と言えば、人々は日本の才能とサムライっぽい武士を覚えている。着物は世界が日本について知るための最もユニークなシンボルになった。

上記の資料を見ると、着物が日本の歴史、社会の条件、生活環境に基づいて、継続と柔軟に変化してきたことを気づけた。複雑な服装から、軽くて快適で、作業に便利だ。洋服の出現まで着物の盛んな時期が続いた。着物はだんだん日常に着けられている衣装だけじゃなくて、国家の大きな行事において高貴なものだ。

III. 着物

3.1. タイプとデザイン

私たちが知っているように、着物は日本の伝統的な衣装であるが、着物は単なる衣装じゃない。着物に言及することは日本の民族衣装文化に言及することだ。日本の着物は男性と女性の両方にとって伝統的な衣装である。伝統的な着物の色や装飾模様そうしよくもようは自然から取り入れられていることが強く象徴しょうちょう的な意味を持ち、着用者の年齢、身分、富を表している。江戸時代になると、婦人服ふじんふくは次第に鮮やかになり、一方、紳士服しんしふくは次第に厳粛になり、その地位を示すようになった。年齢や結婚状況も着物のスタイルや衣装に影響を与える。日本人は着りに非常に繊細だ。様々なイベントにおいて適当な着物がある。したがって、着物を通して、我々は年齢、社会的地位、結婚状況を評価することができる、あるいは単に彼らは何らかのイベントに行くことがわかる。その多様性のために、着物は10種類がある。

3.1.1. 振袖 (ふりそで)

結婚式やお茶会に出席するときなど、主な祝日に着用するシャツの種類だ。ふりそでは未婚の女性専用だ。ふりそでの特色のひとつは、全部の手を覆おおう長袖と幅広はばひろの袖で、振袖着物は普段鮮やかな色で多くの模様があり、手で織おられた上質きぬな絹で作られている。日本の文化によると、20歳になると女の子は成長式を受けるようになり、それがふりそでを着ている時だ。日本の社会では、ふりそでを着ることは、結婚に準備ができる独身の女の子という明確な声明である。ふりそでの値段は生地きじそざい素材、スタイル、仕立て屋の技量ぎりょうによって依存される。ふりそでの価格は通常15,000ドルだ。



3.1.2. 浴衣 (ゆかた)

夏に使用される普通の綿^{わた}で作られた着物の一種だ。浴衣はふりそでほど洗練されたものじゃない。昔の伝統によると、浴衣は普段白と黒、青と白の2種類しかないが、最近の年、浴衣は一段と目立つ色でデザインされている。昔、浴衣は浴び終わった後に自宅でしか着られなかった。だが、今日、浴衣のシャツは非常に人気がある（男性と女性の両方がそれらを着ることができる）。浴衣のシンプルなデザインは、日本の女の子が助けを借りずに自分で着られるのに役に立つ（浴衣はふりそでほど洗練^{ほんおど}されていないので、数回使用すると簡単に着られる）。浴衣は盆踊りの日や夏の祭りによく使われる。しかも、浴衣は日本の伝統的な旅館でも広く使われている。



3.1.3. 訪問着 (ほうもんぎ)

それは優雅な色があり、生地ゆうがの表面そうしよくの装飾的なモチーフで、結婚した女性のための服装である。しかし、パターン密度みつどはより少なくなっている。既婚女性きこんじよせいはもうふりそでを着ていない。この着物は、結婚式やお茶会に行くときや、正式な訪問を受けるときによく使用される。女性はほうもんぎというシャツを着る。



3.1.4. 留袖着物 (とめそできもの)

留袖着物は既婚女性きこんのため、ほうもんぎと同じな意味がある。半袖によって特徴付けられる。体の伝統的な主な色は黒だ。スカートの下部は優雅な色ゆうがで、いくつかの単純なパターンを持っている。しかし、違いのひとつは留袖が夫の家族の名を指示するために付けられたバッジを持っているということだ。これは結婚式といった親戚しんせきで正式な機会にだけ着られる着物である。



3.1.5. 喪服着物（もふくきもの）

親戚の^{そうぎ}葬儀に出席するためだけに使われた。この着物全体は黒だ。



3.1.6. 白幕 (しろまく)

これは日本の女性の伝統的な服装だと言えるだろう。なぜなら、結婚式が伝統的に行われるのであれば、花嫁はこの着物を「白幕」として着るからだ。白幕着物は、地面に触れることができる非常に長いシャツを持っている。したがって、花嫁はこの着物で旅行することができるように仲間の助けを借りる必要がある。そして、白は、物のユニークな色で、肉体と精神について花嫁の純粋さを象徴するものだ。それに白は旅の始まりのあわれだ。この礼服は普通、頭の上に「つのかくし」という白い布が付いている。



3.1.7. 紬 (つむぎ)

これは、農民や一般市民のためのシャツだ。通常の場合に着用されるが、はっきりしたパターンが描かれている。



3.1.8. 付下げ (つけさげ)

明るく目立つパターンで^{そうしよく}装飾され、体の上とシャツの後ろに沿って走り、肩の上で会う。このシャツはパーティー、^{かどう}華道、結婚式に使用される。



3.1.9. 小紋 (こもん)

常に全身に繰り返され、小さく^{おだ}穏やかなパターンで完全に^{そうしよく}装飾されたカジュアルな服装である。



3.1.10. 色無地 (いろむり)

黒を除いて単色に染められた着物の一種で、着用者にきれいな外観を与える。色無地は結婚式、入学式、卒業式、散歩する時といった多くの場面で着用されていた。着用者は布地を選び、何度も再染色することができる。

また、着物素材も四季折々だ。1月から5月まで寒い気候によって、使用される着物は厚い布があり、暖かい色がある。6月から9月まで暑い夏の天候により、使用されている着物はリノールがないし、「ひとえ」というおとなしい色がある。一年で最も暑い時期には、着物は最も冷たく、薄い衣服だと使われる。男性用の着物は通常、模様がなく、濃い色で、家族の紋章を印刷している。最も正式で、伝統的な色は黒である。



3.2. 縫製方法と製造

3.2.1. 縫製方法

- 着物の構造

着物は、日本人の文化精華を反映した伝統的な服装である。だから、着物を縫うことはあらゆる段階で非常に繊細で注意深いされる。完全な着

物を縫うことができるように、我々はその構造について調べる必要がある。

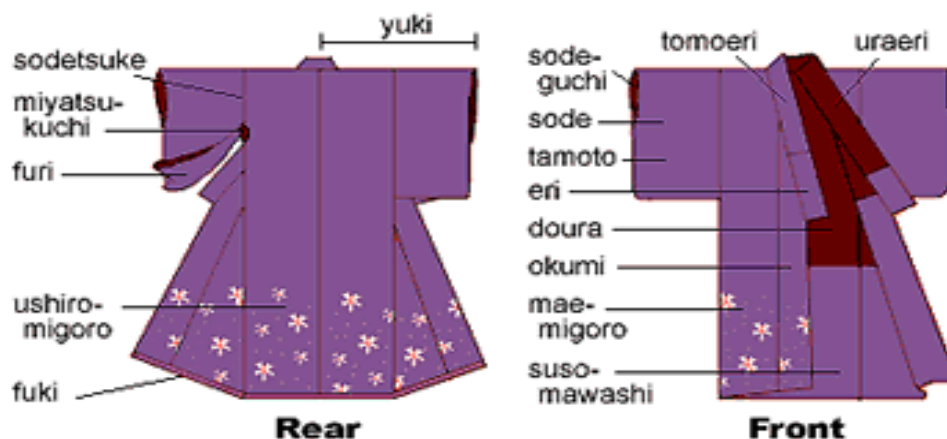
日本の情報ページにおいて、「Kimono gồm có 4 mảnh chính: hai mảnh làm nên thân áo, 2 mảnh làm thành tay áo. Các mảnh nhỏ còn lại làm nên cổ áo và miếng lót hẹp.

Một bộ kimono bình thường được thiết kế theo một phong cách tự do, được nhuộm màu toàn bộ bề mặt hoặc dọc theo đường viền. Trước đây người ta mặc kimono nhiều lớp với màu sắc khác nhau nhưng ngày nay người ta chỉ mặc đơn giản mặc một lớp áo kimono phủ bên ngoài một lớp áo lót。」ということだ。

(<https://thongtinnhatban.wordpress.com/2012/06/18/lich-su-va-cau-tao-cua-kimono/>)

「着物は4つの主要部分で構成されている。体を構成する2つの部分で、袖を構成する2つの部分だ。他の小さい部分は襟と狭いパッドを作る。普通の着物はフリースタイルで設計されたり、表面全体または輪郭に沿って染色されたりする。以前、人々は異なる色で多層の着物を着ていた。しかし、今日の人々は単にリノールで覆われた着物の層を着ている。」と翻訳した。

着物は次のような部分を含める。それは袖付け、身やつ口、後ろの袖の部分、後ろ見ごろ、ふき、ゆき、袖口、袖、袂、襟、お組、前身ごろ、巴利、裏襟だ。



着物は細かい部分に分かれているが、それにはミシン工が上手なテクニックと正確な裁断を必要とする。各部分とペアになっていない、または斜めに縫われていると不良品になる。着物の構造を通して、私たちは桜国の人々の細部に細心や工夫を理解する。さらに、この衣装のパーツ

を分割すると大きな効果になる。必要のとき、引き裂かれたり、消えたりしたパーツを簡単に変更して交換することができる。

- 縫製のテクニック

着物の作り方はとても独特であるが、ユニークな方法でかなり簡単だ。長さ 12~13 メートル、幅 36~40 センチの布を 8 枚に切られる。特に男性用の着物の場合は、5 つに切るだけだ。これらの作品は基本的な着物を形成するために一緒に手作りされている。すべての縫い目は直線に基づいている。布は何もかも使われていて、捨てられている部分はない。

着物は、シルク、リネン、綿などといった天然素材から織物で作られている。日本の女性の伝統的な衣装として知られている。日本人の天然愛情を反映しているためには花のような自然のシンボルがよくある。着物を作るために使用される材料は通常絹だが、浴衣という夏服の着物に限り、普通綿で縫われた。着物の布を切るときは、これらの形の特徴に注意する必要がある。着物はマントで、しっかりと体の上にくつつかのストラップとタオルで包まれ、袖がぶくぶくで、比較的長い。

3.2.2. 製造

基本にかけて、手作りの着物は、日本人によって染色と織りという 2 つの伝統的な工芸方法に従って作られる。染め着物は、伝統的な技法で白い背景に染められた模様やモチーフのものだ。このテクニックは鮮やかな生地を生き生きと作り出す。布地の染色の例は、京都で製造され、細心の注意を払って寛大な色によって知られている京友禅だ。染めた着物は非常に長持ち。ほかのは金沢市で生産された加賀友禅だ。加賀友禅は、リアルな自然のイメージのおかげで、認識されている。2 つ目のタイプは織り着物で、すなわち染色した糸で作られたパターンのある着物だ。このタイプの着物は色が均一で、裏表と区別する必要はない。色で織られる布の例は大島紬だ。九州南部の奄美大島で製作された。この布は強く光沢がある。他例は茨城県結城市で生産されている結紬だ。それは 300 年以上後にまだ存在することができるほど耐久性がある。

3.3. 付属品^{ふぞくひん}

ウィキペディアのページによると、帯は着物を識別するために欠かせない物で、日本芸人の誇りである。それはプリーツを固定し、着物を飾^{かざ}る役割がある。また、帯は社会座を明示している。普通の帯は、長さ約 4.2 メートル、幅 30 センチで、絹^{きぬ}の材料とともに精巧に織られた模様^{そうしよく}で装飾されている。

Vietnam-SSE Study Abroad のページによると、帯に含まれる付属品は次のとおりだ。

- 「コシヒモ」は腰周^{こしまわ}りの最初のループだ。それは色のついた絹の糸^{いと}でできていて、ロープのように編^あまれている。
- 「だてじめ」は、「こしひも」の上に被^{かぶ}せるり、着物を 2 番目の紐^{ひも}で結んだものだ。
- 配線^{はいせん}：明治時代には、日本人は「帯締めと帯揚げ^{おびじ おびあ}」を含めて帯という物を作成した。帯締めは帯の表面の上に結^{むす}ばれている綱^{つな}で、それは多くの異なる色^{こと}を持っており、選択された色はしばしば帯を強調している。さまざまなスタイルや色でこれらの帯を使用すると、日本のファッションを証明する方法になった。
- 「ちょちょ」は帯の後ろに結^{むす}ばれたリボンで、複雑な構造をしているが、実際には持ち運びが簡単だ。それは 2 つの部分で構成されている。ワイドバージョンは、長さ 5 フィート、幅 6 インチだ。それは腰^{こし}に巻^まき付けられ、内側^{うちがわ}に挿入^{そうにゆう}される。リボン部分には帯に取り付けるための手鉤^{てかぎ}がある。
- 男性着物のための「カク」と「ヘコビ」だ。「カク」は、長さ 3.5 インチの綿織物^{めんおりもの}で作られた普通の男性用の帯だ。「ヘコ」は浴衣のための柔らかい帯だ。
- 「たこむすび」：江戸時代から作られたほかのタイプの帯で、非常に人気がある。
- 木製^けの下駄^{げた}：1 世紀前に日本で一般的に使われていた。女性の小さく丸い下駄に反して、男性の下駄はしばしば大きく、角があり、低い。昔、日本人は下駄を打ち込んでいなかった。代わりに、直接^ひに木に彫^ほる。というのは、木切れを使って木靴^{きぐつ}を製作した。

帯にはふくろう帯^{かためんかざ}（片面飾りのみ）と名古屋帯^{なごや}（体の周りを易しく結ぶためにより狭い中）の 2 種類がある。京都で作られた錦帯（にしきお

び) や福岡県ふくおかけんで作られた博多兼城(はかたけんじょ)のような帯は金や銀ぎんのような寛大かんだいな色おが織おられていることで高く評価されている。日本人は帯を結ぶ方法が 100 以上ある。結束けっそくスタイルは、自然の中のものを反映はんえいすることがよくある。最も一般で、人気があるタイプの帯は、太鼓結び(たいこむすび)で、背中が縛おられていて、太鼓のようなシンプルな外観をしており、年齢を問わず、あらゆる着物と組み合わせることができる。太鼓結びは、19 世紀に芸者によって考えられ、江戸時代末期から流行した。このリボンが画面に表示されたとき、人々は帯の美しさをあまり気にしていなかった。帯は着物の前面がきつくなるようにするための道具だけだった。しかし、太鼓結びが登場した直後に、他の多くのリボンのスタイルが登場した。さらに、文庫結び(ぶんこむすび)は翼つばさを下ろしている蝶ちょうと特徴がある。縦や野路結び(たてやのじむすぶ)は 45 のカントで傾かたむいている大きなリボンという形を持つ(少女の振りそでともな振袖まいこを伴うことが多い)。(「だらり結び」は舞子(芸者インターン)のために、後ろに交差していたの 2 つの長い絹の形がある。

着物に使用される他の重要なアイテムは、ハンエリと足袋たびだ(ぞうりに合わせる靴下)。着物の色を強調するため、これらの色はすべての白だ。着物姿ものすがたの女性は、伝統的な竹傘をよく持っている。男性は「はかた」(半スカート、外に着物を巻く)と「はおり」(腰ももや腿すそまで短い裾、広い袖そで)に組み合わせる着物を着る。女性だけでなく、男性も着物を着ている。なぜなら、日本の侍さむらいは封建時代から、着物を着慣れる。各地の武士は着物の色によって区別され、これらの服は普通の制服になり、非袖なしの上着の層が「かみしも」で、ズボンのようなスカートは「はかま」と呼ばれる。「かみしも」は、肩を硬く目立つようにして、強く押し付けられたリネンで作られている。多くの種類の侍着物で、仕立て屋はますます腕がよく、着物を縫ぬうことも芸術になる。着物もより価値があり、両親は家宝かほうの財産として着物を子供に受け継つぐ。

3.4. 値段

インターネットで調べる限りでは、着物は世界で最も高価な衣装の 1 つであると知っている。細心の注意を払って、精巧せいこうな方法で優秀ゆうしゅうに結び付けられた完全な着物を作成するには、労働者は経験や器用な手先が所有

する。Letco.vn のサイトによると、美しい着物は通常手作りのと手縫い布によって非常に高価がある。人々は本物の「銀」または銀の糸を混ぜ、そしてパターンは純金と銀粉から作られる。プロ芸人だけが大きな儀式の着物を作る。着物は単純な服装じゃなくて、美しい芸術作品こそだ。ユニークな着物は、博物館や家のワードローブで重要な場所を占めており、世代ごとに「家宝」のように受け継がれていた。非常に裕福な日本人、または着物とともに演技せざるを得ない舞代で「のお」や歌舞伎の有名な芸術家だけでは、偉大な儀式用の着物を着ている。現在、日本の花嫁は専門店で着物を借りることがよくあり、そこでは専門家が着物を正しい方法で「着用して移動する」ことを彼らに勧めている。このサービスは毎回約 800 ドルで、すなわち結婚式の最高コストだ。お金持ちにとって、新郎新婦は少なくとも 2 つの着物を変えなければならない。

女性の着物は 1 万ドルを超える可能性がある。着物、ブラジャー、帯、包帯、靴下、足袋、その他のアクセサリといったものを含む完全な着物は、2 万ドルを超えることができる。帯のコストは最大数千米ドルだ。しかし、着物が熱錬したミシン工によって作られて、彼ら自身の服装のニーズを満たすならば、コストはより柔らかくなる。彼らは特定の基準に従って着物や下着を自分で作り、または古い着物を再利用することが知っているからだ。彼らは機械で織るおかげで、時間を節約し、より安い布に高価で伝統的な織物や染色の絹を代わることができる。この方法に従った着物の代金はたったの 6 ドルだ。

一方、女性用の帯は最も高価がある。無地、またはシンプルなモチーフの帯は、約 18 ドルかかるが、模様の帯は使用済みなのに、数百ドルもかかる。なぜなら、それらを製造できるために、経験した職人を必要があるからだ。男性用の帯は女性よりも幅が狭く、短く、少ない尾チップなので、安価になる傾向がある絹から作られたものだ。現在、多くのウェブサイトで非常に簡単で、安い価格で着物を縫う方法を教えているビデオを持っている。したがって、和風の着物を所有することは若い日本人だけでなく他の国々に対して、豪華な夢ではなかった。

3.5. 着物の使用

ウィキペディアのページによると、日本人は四季の天候に非常に鋭敏^{えいびん}であり、彼らの服は常に天候に依存する。日本人は自分の人生の段階について知らせ慣れる。着物のタイプや色を変えることは、着ている人が相手に伝えたいことを理解するのに役立つ方法でもある。たとえば、子供の成長式といった重要な一里塚を示すために特別なイベントにおける、人々は着物セットを天気とイベントの両方に合うように変更する。

子供が生まれてから 30 日から 100 日の間に、親、兄弟、祖父母が子供の誕生について報告するために一緒に神社へ来た。子供は中に白い着物を着ている。その着物の外側で、女の子が友禪染^{ゆうぜんぞ}めの着物を着ており、男の子が家族バッジが付いている黒の着物を着る。11 月に開催^{かいさい}される七五三祭では、両親が 5 歳の息子と 7 歳または 3 歳の娘を地方の神社に連れて行く。目的は、子供たちを早い成長で、健康に保つことを神に感謝する。この機会に子供たちも着物を着る。

20 歳のとき、1 月の第 2 週間の月曜日に若者が神社に参拝するにを通して成長式を記念する。その際、女の子はふりそでを着り、男の子は家族のバッジとともに「はおり」と「はかま」を着る。

どんなイベントでも、日本人はいつもどんな着物を着たらいいと決定する前に天気を考慮する。青といった薄い色は春に適しており、ライトパープルやダークグリーンなどのクールカラーは夏用に適している。秋は落ち葉の色を模した色で、冬は黒や赤のような濃い色の季節に合う。夏には花火や夏祭りに行くのが好きだ。この時期は浴衣を着る。過去には、日本人は入浴時に浴衣を着用していたが、現在で浴衣は、すべての性別、年齢の日本人によって着用される通常の夏服だと見られる。伝統のとおり、それらは白と結合された青を持っているが、近年では、カラフルなデザインが現れた。

このように、着物はもはや日本人の日常着ではないが、彼らはまだ着物を着ることを年の何度も好むのだ。

3.6. ベトナムのアオザイの対照

着物が日本の女性の美しさと洗練さの象徴^{しょうちょう}であるならば、ベトナムという、世界の友達はしなやかな裾を覚えて、ベトナムの女性のおとなしく、魅力的な美しさを称える。いつからベトナムの娘アオザイは詩歌と音楽と絵画において無限のインスピレーションの源となっているかわからない。多くの歴史的な浮き沈みの後、アオザイは伝統的な美しさ、長年の文化的価値を保持^{ほじ}し、長寿を肯定する。アオザイは、ベトナム人

女性の優雅で、魅力的な美しさとセクシーな曲線を飾っている。ベトナムのアオザイは、この伝統的な服装の強い国民的シンボルであることを証明した "aodai" と呼ばれる言葉で英語辞書に現れた。アオザイは保存される必要がある無形文化遺産としてユネスコによって認識された。ベトナムの人々は彼らの文化的美しさを世界にもたらすことを非常に誇り、世界の友人によって受け取られて、賞賛される。



アオザイについて書くページにわたって、日本の着物ほど早くなく、
ベトナムのアオザイは 17 世紀頃にかかなり単純な構造で出現したとわかる。
シャツは 4 枚の布でできているので、老人はそれを「aotuthan」と呼ぶことがよくあります。しばらくすると、人々は 4
ピースのシャツを 5 体のシャツにして、金、木、水、火、土という「五行」
に対応する 5 つの要素からとなる。これらのシンボルは当時のベトナム社会における地位を区別するために作られたものだ。次第に、
西洋文化がベトナムに導入され、アオザイは常に更新され、今日のアオザイのような外観を所有する。しかし、時代の多くの変化を経験しているにもかかわらず、アオザイはまだその固有の美しさを保持している。それはベトナムのユニークで、優しく、魅力的な美しさである。昔のアオザイは日本の着物のような男性と女性向きのものです。男性用アオザイは普段エレガントな色、高く、垂直な首を持っており、男性の上じきな本質を象徴している。シャツはタイトではないが、シャツの上下に広がるほど、袖の幅は自由に調整できる。反対、女性用ア

オザイは色、パターンがたくさんあり、襟のデザインも着用者の好みに応じて異なる。たとえば、いくつかの襟のタイプは丸く、ハート形、4-5センチの高さ、それに襟に宝石をつける。女性は常にドレスまたは絹でぶくぶくズボンと併せり、下駄を履き、あるいはアクセサリーと帽子を組み合わせることができる。

アオザイを作る方法は非常に簡単なので、価格はかなり安い。王、貴族きぞくまたは裕福な人々である必要はないが、普通の人々からそれらを所有することもできる。着用者の身分は、布地の素材、織せんさい細ししゅうな刺繍の模様、それに付く宝石類ほうせきるいによって理解される。それゆえ、アオザイは人情のこもっており、平和を愛するベトナム人の伝統的な衣装となる。

今日、男性用のアオザイは非常に少ない。彼らは主に南部での結婚式、バクニンでのリン祭りなどの伝統的な祭りに着ている、...女性用のアオザイは常に多くの新しく、モダンなデザインで人気がある。ベトナムの女性は、通学、演奏、キャンプなど、さまざまな場面でアオザイを着ることができる。特に、アオザイは、ミスベトナムのような全国規模の競技に欠かせない服装である。したがって、国際的な友人たちは素晴らしいアオザイの中のベトナム人女性の映像について常に深くイメージを受けている。

IV. 現代の着物

4.1. 現代の着物の傾向

今日では、仕事の性質と伝統的な着物の不便さにより、日常生活の中でめったに使われない。サムライ家族のような日本の伝統的な家族だけが毎日着物を着き続ける。主に伝統的な祭り、成長式、結婚式などの重要な機会に着物が着られるのをよく見かける。

現代のトレンドについていくために、今日の着物もまた、かなり現代的に変化され、使いやすい。着物ドレス、睡眠の着物、海への快適な着物など、市場に新しい着物のデザインがたくさん登場している。デザインは複雑じゃないから、価格は消費者の財布に合う。6万ドンからはずで和風の着物コートを所有することができる。

日本人の革新的な着物とベトナムのアオザイとを比較すると、多くの類似点がある。従来のような幅広のズボンに代わり、ベトナムの革新アオザイがスカートもしくは若々しいジーンズと組み合わせり、アウトドアパーティー向き短い裾だ。日本の革新着物は、若々しいデザイン、多様な色を変えることでよく知られている。しかし、それは多くの外観を変えたが、革新的なアオザイや着物は混ぜられない彼ら自身の伝統的な美しさを保つ。それが最も立派なことである。

ところで、日本の着物に適したモデルの私見を提示したいと思う。私にとって、伝統的な着物はかさばるので、たくさんの層が付けられているのおかげで、着用者の欠点を隠すことができる。しかし、今日の着物の単純化された傾向に従うならば、バランスの取れた体を持つ人々は、様々な色の着物を着ることができる。スリム、すなわちやせり気味な人は明るい色と少し厚い材料を着用する必要がある。太り気味の人のかえって、体にフィットしていなく、濃い色の着物と薄い素材を着用することである。

4.2. 変更

なぜ日本人は洋服に切り替えたのか？

このエッセイでは、着物の欠点について多く述べた。それでは、以下のいくつかの理由をまとめようと思っている。

- 伝統的な着物は多層であるせいで、とても暑く、着用するのが非常に複雑だ。したがって、時間がかかり、かさばるデザインで、移動が難しいため、作業には適していない。

- 逆に、洋服はきちんと、薄くてクールな素材で、ズボンを着るのは運動しやすいので、多くのものの性質に合う。
- 着物の縫い方は複雑なので、価格は高い。その時、洋服は工業のラインに従って製出られており、安いコストのだ。
- 伝統的な着物の着用は、裕福な人と貧しい人との違いをはっきり反映しているので、洋服を着るのおかげでその分別が減り、現代日本社会はより良くなる...

これらが、日本人が洋服に切り替えたいいくつかの主な理由だと思う。

結論

「日本人の伝統的な服装：着物」というテーマを研究した次第、私は着物をはじめ、日本についての多くの面白いで非常に有用な情報を学んだ。

- 着物は、非常に早く生まれ、朝鮮ちようせんから起源とする。日本の人々は渡来したり、取り入れたり、かれらの国に向きに変化したりした。初めて日本の服は「和服」と呼ばれる。その後、着物という言葉は「日本の国民的称号」と世界中で知られるようになった。歴史の流れに沿って、着物は次第に新しい、若くてファッショナブルなシャツであり、桜の国の誇りである。
- 着物は非常に多様なスタイルだし、複雑な作り方だし、アクセサリそうぞうりょくもかなり洗練されている。それは日本人の人々の創造力、衣装を通して表現される思考の洗練さ、などを表している。

今日では、歴史的条件、美的概念、衣服材料、交換環境、および労働操作の学習が変化したとき、伝統的な服装も新しい背景はいけいに応じて発達する必要がある。この作業は人間の伝統に基づく創造能力と直接に関係している。さらに、私たちはある国の伝統的な服装を形のショーしやうに変えることはできない。伝統的な衣装を着る人は、民族の文化的アイデンティティせいしんの精神と意識を欠いている。したがって、国の服装のアイデンティティを保存し、一般的な意識に国の文化を発展させるためには、教育システム、メディア、広告の役割と影響に注意を払う必要がある。課題の研究中に、着物はかなり広いテーマであることが理解した。より深く掘り下げほさるならば、もっとも面白いことがあるだろう。また、資料は大ざっぱに調べられたし、多くの問題がはっきり理解されていないし、私はまだかなり曖昧あいまいに感じる。エッセイはまだ不足しているので、自分の研究を改善するために貴重なコメントを受け取ることを楽しみにしている。

参考文献

これがこのエッセイを完成させるのに役立つ典型的なウェブサイトだ。

<https://vi.wikipedia.org/wiki/Kimono>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%92%8C%E6%9C%8D>

<https://vi.wikipedia.org/wiki/Kimono>

<https://thongtinnhatban.wordpress.com/2012/06/18/lich-su-va-cau-tao-cua-kimono/>

<http://duhoc.viet-sse.vn/2009/04/nhung-phu-kien-cua-kimono-26>

<http://letco.vn/cam-nang/y-nghia-cua-ao-kimono/50480.htm>

<http://vaiaodaiduyen.com/kcfinder/upload/images/2%2827%29-compressed.jpg>

https://vi.wikipedia.org/wiki/%C3%81o_d%C3%A0i

<https://vaiaodaiduyen.com/chia-se-lam-dep/ao-dai-viet.html>